

『森でのひろがり』

きくのはな通信

年少 11月

森へ行くと、各々が遊びたいこと・興味のあることを見つけて活動しています。最近では共有コーナーと同じく、少しずつクラスを超えて同じ遊びをする姿があります。
※共有コーナーとは、廊下など保育室ではなく、みんなが共有して交わるスペースです。そこでは同じクラス以外の子どもが交わり、遊んでいます。



以前は先生と一緒に遊んだり、自分の興味ある事でそれぞれが遊んでいる姿が多くありました。クラスの友だちと関わる事が増え、色々な経験を共にしていく中で「なにしているの?」「いれて」「いいよ」のやり取りが増え、色々な友達と遊ぶ姿が増えています。

最近では、違うクラスの友だちのしていることに興味を示し、近くで見たり、自然と一緒に遊びだす姿が見られるようになってきました。

「いっしょにあそぼう」と言葉で伝えることはまだ難しい時もありますが、「これ、手伝ってほしい」と友達の声聞いて木と一緒に持ったり、自然と一緒に活動する様子があります。



また、興味ある事を友だちに伝えて一緒に遊ぶことが楽しくなって、先生たちが提案した遊びだけでなく、森の中での見立てあそび（葉っぱや石を使ってのままごとや丸太などを叩いて楽器遊び）を自分達で考えて遊んでいます。

どんぐりや葉っぱなどの自然物を探しながら「こんなどんぐりみつけたよ」「おなじどんぐりがほしいの?あっちでひろったよ」と自分の知ったことを友だちにも伝えようとする気持ちも大きくなってきているようです。

まだ同じクラスの友だちとの関りが中心ですが、低年齢の時に一緒だった、ホームクラスで一緒、園庭で一緒に遊んだ事がある等、些細なきっかけの繰り返してクラス以外の友だちの姿に目を向けられるよう環境や遊びを用意していきます。「いっしょにあそぼう」とクラスから学年の子ども達へ関わりが広がっていけばいいと思います。



※色のちがう帽子の子が一緒に遊んでいます

年中組の 泥だんごストーリー

1学期から少しずつ始まっていた、『泥だんご』。
2学期に入り本格的に年中組にブームがきました!!
きっかけは年長組が作っているのをみていたり、先生が作ったまんまるいきれいな泥だんごをみて、つくりたい!と憧れ、作り始めるようになりました。



先生や年長組が作るようなまんまるいツルツルの泥だんごを目指して作っています。
初めはすぐに壊れてしまったり、形がぼこぼこしていたりでなかなか納得がいかない様子もありました。でも諦めずに、先生とどうしたらツルツルの硬い泥だんごができるかなと調べました。
砂よりサラ粉（※砂をふるいにかけ小石を抜いたサラサラな砂のこと）がいいんやって! 1日寝かせるとかたくなるらしい。といろいろ調べたり聞いたことを試しています。



どこのクラスも泥だんごの作り方が掲示してあります。
写真に見えるピンクの袋の中に泥だんごが寝かせてあります。



サラ粉作るには
ふるい（ざる）とほうきが必須
園庭にでるなり、自分の分を
確保しています。
なくなるとお友だちと譲り合って
使っています。



サラ粉をいっぱい集めて
「きもちいい」とサラ粉集めに
専念しているお友だちもいます



ちょっと水入れすぎて
泥がしゃばしゃばになっちゃった
サラ粉たして調整します



階段下は
いっぱいサラ粉あるでと
コンクリートの上のほうか
さらさらなことに気付きました

かたい泥だんごにするには
さらさらのサラ粉の方が
いいからと。何回もふるいにかけて
さらさらになっています



なんでだろう? どうしたら!?
好奇心・探求心
科学の芽!?!が
育っています ♪

壊れてしまっても、諦めたりせずもう一度チャレンジしていたり、どうやったらいいのかな?と自分なりに考えて実践していたりと自分で作っていくことを楽しみ、作った泥だんごへ愛着も感じ大事に大事にしています。

また、作っていると年長組の子たちがアドバイスをくれたり、自分のクラスから磨くための布を持ってきてくれたりします。年長組さんのようにつるつるの泥だんごになるように、日々試行錯誤中の年中組です。

泥だんご作りを通して、年長組への憧れをもったり、自分で考え、考えたことを実践したり、たくさんのお友だちから学ぶ機会になっています。遊びを通して様々な力が育っています。



きくのはな通信
年長11月

みんな大好き

わくわく
どきどき

ドッジボール！

10月から取り組みだしたドッジボール。どんなことに対してもやってみようとする気持ちを大切にしてもらいたい、という思いを持って取り組んでいます。はじめは集団ゲームの経験やボールに慣れることを目的として“ころがしドッジボール”から始めました。

自分の陣地の中で逃げる、壁にバウンドするか、ボールが止まってから自分のチームのボールになるなどのルールを知り、行方を追いかけたり、近づくボールから逃げたり、それぞれの方法で参加をしている姿があります。



転がるボールにどうしたら当たりにくくなるかを考えたり、先生からの少しのアドバイスで気付くことがあったり、友だちの気づきをみんなで共有しながら何度も経験していきます。

話し合いをしたことを意識して活動してみたり、友だちが困っているときには声をかける姿もあり、“チームで取り組む”思いを持って進める姿に年長らしさを感じます。

ゲームをしている中で勝ち負けは出てくるのですが、「つぎはかちたいな」「もう1かいやりたい！」と意欲的に参加していて、ボールにも少しずつ慣れていきました。



11月に入ると“投げる”方法を教えてもらった子どもたち。「ボールを投げるときはこんな格好で投げるといい」「こうすればよく当てられるんとちがう？」などみんなが思い思いの意見を言い、実践する姿がありました。片手でボールを投げるとスピードが増し少し「かっこよく」なった気分になる子どもたち。顔も真剣な表情になってきました。

また、線から出ないように意識して投げたり、ボールも胸の前で受けるとしっかりとれるなど少しずつルールや方法を教わりながら、ドッジボールの形になってきました。

試合の前はチームで円陣を組みます。みんなの手が自然と隣の友だちの肩に回るときみんなの目も円陣の真ん中に注がれて、元気な声と同時に「やるぞ！」という気持ちを一つにします。今はまだ投げることに一生懸命だったり、少し恥ずかしかったりする気持ちがありますが、これからどんなふうに取り組んでいくのかとても楽しみです。



はじまりとおわりには向かい合ってごあいさつ。

相手を思いやる気持ちも大切にしていきたいです。